

# 内部障害

内部障害とは、内臓の機能障害のことです。身体障害者福祉法では、心臓機能、呼吸器機能、じん臓機能、ぼうこう・直腸機能、小腸機能、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能、肝臓機能の、全部で7種類の機能障害が定められています。

## ハート・プラス マーク

「身体内部に障害がある人」を表しています。  
(特定非営利活動法人ハート・プラスの会)



## オストメイトマーク

ぼうこう・直腸機能障害の多くは、人工肛門、人工膀胱（ストーマと称する）を用いて排泄の管理をします。ストーマ保有者のことをオストメイトといいます。



このマークは、人工肛門・人工膀胱を造設している人（オストメイト）と、その人のための設備があることを表しています。

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

## コミュニケーションの配慮とポイント

内部障害は、ほとんどの人が、外見からわからない「見えない障害」です。そのため周囲の理解が得られにくく、ストレスを受けやすい状況にあります。

### ● 疲れすぎに注意

内部障害のある人の中には、体力がなく、疲れやすい人もいます。利用状況や顔色等の様子を見守りながら、気になる変化があった場合は、声をかけましょう。また、免疫力の低下により感染症などにもかかりやすい人もいるため、施設側も日頃より感染対策を徹底しましょう。

### ● 椅子を用意し、短時間の対応を心がける

障害のある臓器だけでなく、全身状態が低下していることが多いため、とても疲れやすい場合があります。「重い荷物を持つ」「対応時は椅子をすすめる」「できるだけ短時間で対応する」などの配慮をしましょう。

### ● ヒト免疫不全ウイルス（HIV）への正しい理解を

HIVは、偏見や差別の多い病気です。唾液、涙、尿などの体液には、他の人に感染させるだけのウイルス量は含まれていないため、プールやトイレ、器具の共用で感染する心配はありません。HIVについて正しい知識を持つとともに、相手のプライバシーには十分注意して対応をしてください。

